令和４年　９月　８日

令和４年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和４年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和4年4月19日(火)

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年	国語　１３人	算数　１３人	理科　１３人
第５学年	国語　２１人	算数　２１人	理科　２１人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

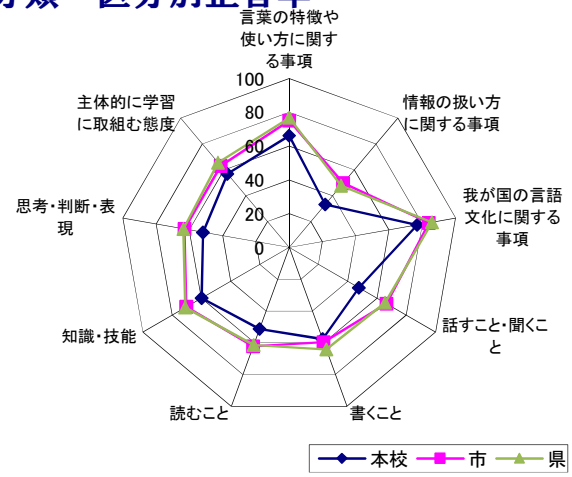
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内西小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	66.2	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	33.3	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	76.9	84.0	85.9
	話すこと･聞くこと	47.7	66.5	65.5
	書くこと	57.7	59.6	64.2
	読むこと	51.3	62.2	61.5
観点	知識･技能	59.9	70.2	71.1
	思考･判断･表現	51.8	62.9	63.6
	主体的に学習に取組む態度	56.9	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

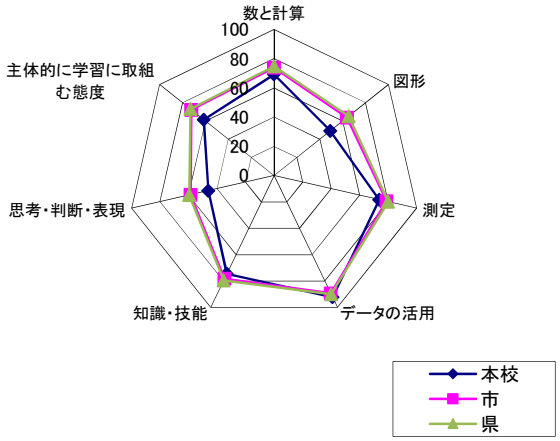
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，市の平均より低い。 ○漢字の読みはよくできている。漢字小テストで確認したり，生活の中で登場する漢字の読みを確認したりしたことで理解を深めたと考えられる。 ●漢字の書きに課題が見られる。とめやはね，はらいについて書けていなかったり，部首やつくりから意味を理解して覚えられていなかったりしたことが考えられる。	･漢字を書くことができるようになるために，既習内容について再度確認したり，筆順やとめ，はね，はらいを正確に書かせたりする。また，部首やつくりから漢字の意味を理解させることで漢字を覚える意欲を高める。小テストを行い，支援を繰り返すことで漢字の定着を図っていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，市の平均より低い。 ●「情報と情報との関係を理解し，話し手が伝えたいことの中心を見付けたり要約したりする」ことにつまずく児童が多く見られる。文章を読むときに，複数の情報を関係付けて理解する力が定着していなかったことが考えられる。	･文章を読んで，適切な情報を選択する学習や，同じ文章でも発問によって情報の選び方が変わることに気付けるように大切な語句に線を引き，発問に対してどの情報が必要か考えさせる指導をする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，市の平均より低い。 ●漢字のへんやつくりの理解が不十分である。へんやつくりに着目して漢字の意味を捉えることに課題が見られる。	･へんやつくりを充分に理解するために，漢字辞典を日頃から活用し，部首を学ぶ習慣を付ける。また，部首と，漢字の関係性を考えさせることで，その部首が何を意味するか理解できるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，市の平均より低い。 ○相手に伝わるように，自分の考えを理由を挙げながら文章にすることはよくできている。自分の考えを文章にする学習を積み重ねたことで，自分の考えを伝える力が身に付いたと考えられる。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉えることに課題が見られる。話者の伝えたいことや，大切な言葉を聞き取ることにつまづきが見られる。	･聞き取りの学習を行うときに，話者の伝えたいことや理由，大切な言葉等，視点をもってメモを取る活動を継続していく。話が終わったら，何度も出る言葉や，強調して話される言葉を確認し，伝えたいことの中心を捉えられるようにする。
書くこと	平均正答率は，市の平均よりやや低い。 ○段落の役割について理解し，二段構成で文章を書くことは，よくできている。教科書の内容だけでなく類似した構成の文章でも経験させたことが理解を深めたと考えられる。 ●自分の考えを明確にして書くことに課題が見られる。話題に対して，自分の考えを膨らませる力が身に付いていないことが考えられる。	･自分の考えに明確な理由があるか考え，文章にできるように，話題に対して自分の考えをもち，友達に伝える学習を行うことで，明確な理由のある考えをもたせられるようにする。 ･文章化したものを，児童同士で読み合い，考えや理由が明確である文章作りになるよう推敲する経験を積ませることで，自分の考えを明確にした文章を書くことにつなげる。
読むこと	平均正答率は，市の平均より低い。 ○段落毎の内容を確認する学習を積み重ねたことで，叙述を基に文章の内容を捉えることができている。 ●場面の様子について叙述を基に捉えることに課題が見られる。言葉を手掛かりに，文脈をたどり，視点を定めて読むことができない児童が多く見られる。	･場面の展開や登場人物の描写に着目して読むことで，それぞれの段落がどのような内容だったかを理解できるよう支援する。 ･登場人物のそれぞれの様子や言動について，他のどの場面や描写と関係があるかを伝え合う学習を取り入れることで，場面の様子を理解できるようにする。

宇都宮市立上河内西小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.2	73.8	74.8
	図形	49.2	63.7	65.3
	測定	73.8	78.9	80.1
	データの活用	92.3	89.3	90.0
観点	知識・技能	74.5	78.3	79.5
	思考・判断・表現	46.2	58.6	59.5
	主体的に学習に取組む態度	61.5	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

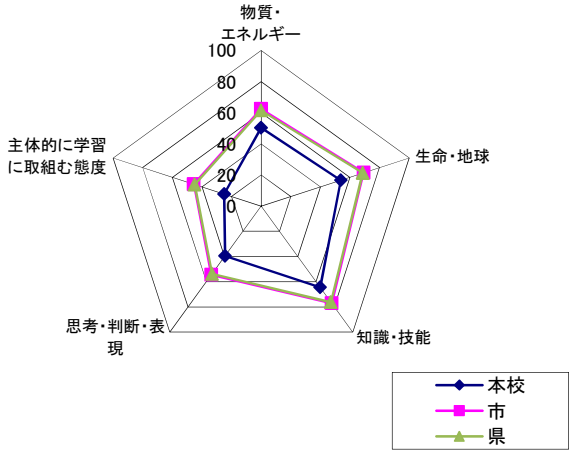
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，市の平均より低い。 ○2けた÷1けたの計算や同分母の真分数同士の計算は，十分理解できている。わり算の「たてる，かける，ひく，おろす」という計算の手順を確認することを継続的に取り組んできた成果が出ていると考えられる。 ●わり算の文章問題の立式や□を使った式の立式，かけ算の暗算のしかたを説明することに課題が見られる。	・計算については，さらなる定着を図るために，四則計算の復習を授業のはじめなどに取り入れて，継続して学習する。 ・授業で文章問題の立式をノートに書かせるだけでなく，計算のしかたを書かせ，説明する活動を取り入れるようにする。また，よい説明のしかたをしているものを全体で取り上げ，書き方が身に付けられるようにする。
図形	平均正答率は，市の平均より低い。 ●二等辺三角形の作図の技能が不十分である。コンパスの使い方や頂点の決め方の押さえが甘く，十分に身に付いていなかったと考えられる。 ●円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明することが難しかった。半径の長さがどこも等しくなるということが確かな知識として定着していなかったと思われる。	・図形を作図することに苦手意識を持っている児童が多くいるため，授業でコンパスの使い方や二等辺三角形のきまりを確認するとともに，練習問題を繰り返し解かせる。また，図形の性質について説明する機会を授業などで設ける。
測定	平均正答率は，市の平均より低い。 ○一人一人がはかりを実際に操作する活動を取り入れてきたことで，はかりの目盛りを読む設問の正答率は，高かった。 ●重さを推測して，適切な単位を選択することに課題が見られる。	・具体物を用いて実際に長さや重さを測るなどの学習を通して，日常体験から学ぶことができる活動を増やし，長さや重さについての感覚を身に付けさせる。
データの活用	平均正答率は，市の平均より高い。 ○表とぼうグラフをよく読み取ることができている。教科書の問題だけでなく，類題を毎時間取り入れてきた成果と考えられる。	・学校や学級の児童に関連のある内容の数値を取り上げ，日常の生活での活用につなげられるようにする。また他の教科で，グラフに表す活動を取り入れることで，定着を図る。

宇都宮市立上河内西小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質･エネルギー	50.3	62.5	61.5
	生命･地球	53.8	69.2	68.6
観点	知識･技能	64.6	77.2	76.3
	思考･判断･表現	39.5	54.4	53.7
	主体的に学習に取組む態度	25.0	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は，市の平均より低い。 ○「電気を通すものと通さないもの」，「回路図の説明」について正しく理解できている。具体物を用いた説明や実験などを行うことで，理解が深まったと考える。 ●「光のせいしつ」についての設問において，つまずく児童が多く見られる。 ●「じしゃくのせいしつ」について課題が見られ，特に記述ができない児童が多数見られる。	･光の進み方や反射させ重ねた光の明るさについて，再度体験的に学ぶ活動を意図的に設け，知識の定着を図る。 ･磁石を用いた実験を適宜行うことで理解を深め，知識の定着を図る。 ･記述問題の正答率が下がる傾向であることから，授業で学んだ科学的な言葉を用いて自分の言葉でまとめる活動を多く取り入れ，言語活動の充実を図る。
生命・地球	平均正答率は，市の平均より低い。 ○「植物の育ち方」について，多くの児童が理解できている。学級で生き物を飼い，日常的に観察することでより深く動植物の生態について考えることにより，理解を深めたと考える。 ●「身近な自然のかんさつ」「こん虫の育ち方」「太陽と地面のようす」について，理解が不十分である。 ●「太陽とかげの動き」や「日なたと日かげの地面の変わり方の様子から時刻を推測する」においても，課題が見られる。	･授業の中で再度「太陽」についても取り上げ，太陽とかげの位置変化を方位で捉えることや，日なたと日かげの地面の温度は時刻とともに上がることを復習していく。 ･「こん虫の育ち方」などについても，身近な自然の観察を年間行うことにより，理解を深めさせる。 ･観察の結果から考察する場面において，ペアやグループでの話合いを意図的に設けることにより，様々な考え方に触れさせる。

宇都宮市立上河内西小学校 第４学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「ぎ問や不思議に思うことは，分かるまで調べたい」「本やインターネットなどを利用して，勉強に関するじょうほうを得ている」という質問に対して肯定的に回答した児童割合は，市の平均をやや上回っている。このことから，日常的に自力解決をしようとする姿勢が見られる。授業での調べ学習やドリル学習などで使用することが日常化していることが，肯定的な回答として表れていると思われる。

●「毎日，朝食を食べている」「早寝，早起きを心掛けている」という質問に肯定的に回答した児童の割合は，市の平均よりも低くなっていることから，規則正しい生活や基本的な生活習慣に課題が見られる。「ゲームをしている時間」についての質問では，全くしない児童もいるが，2時間以上と答える児童が53.9%，その中には4時間以上と答えた児童もいた。これらのことから，家庭と連携を図りながら，自由な時間の過ごし方について計画を立てるなど家庭での時間の過ごし方について考えさせていく。

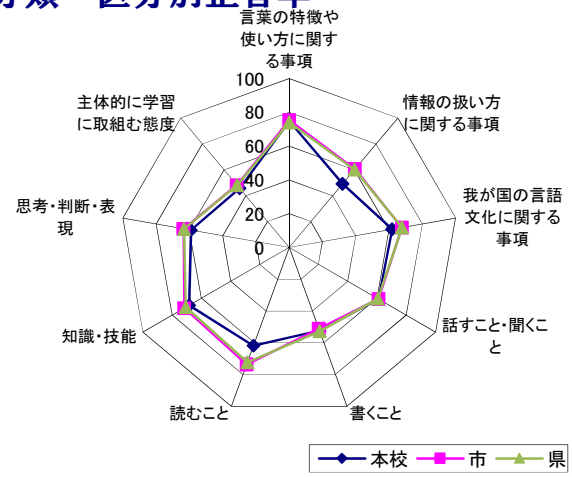
●「家で，自分で計画を立てて勉強をしている」「家で授業の予習をしている」という設問に対する肯定的に回答している児童の割合は，市の平均よりも低い。自分に合った学習のしかたを考えたり興味をもったことを探究したりする楽しさや大切さを改めて伝え，学習の方法を紹介したり，提案したりしながら，家庭学習のさらなる充実を図っていきたい。

●「自分によいところがある」という質問に肯定的に回答している児童の割合は，市の平均より下回っている。一方，「むずかしいことでも失敗を恐れないで挑戦している」「だれに対しても，思いやりの心をもってせっしている」という質問への肯定的に回答している児童の割合は，市の平均を上回っている。このことから，自分の行動が相手に認められていないと感じることから自己有用感，自己肯定感が低いことが分かった。授業中や学校生活の中で，よい行いやすばらしい考えを称賛したり，友達のよさだけでなく自分のよさを見つけるような活動を取り入れたりする機会を意図的に設け，自己有用感，自己肯定感を高めていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.8	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	49.2	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	61.9	67.7	67.8
	話すこと･聞くこと	61.0	61.0	60.7
	書くこと	52.4	51.2	52.8
	読むこと	61.9	73.7	72.4
観点	知識･技能	68.4	71.7	70.6
	思考･判断･表現	59.0	63.5	63.2
	主体的に学習に取組む態度	45.7	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

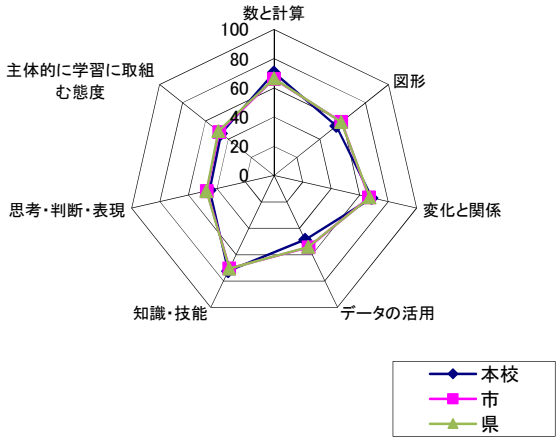
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は，市の平均よりやや低い。 ○気持ちを表す言葉の意味を理解し，文章に合う言葉を選択することができている。作文や日記を書かせる活動を繰り返し授業や家庭学習で取り組んでいる成果と考えられる。 ●漢字の書きはできていたが，読みに課題が見られる。 ●修飾語についての理解が不十分である。	・既習漢字を他の学習の中でも使うよう声を掛けるとともに，漢字には音読み，訓読みと読み方がいくつもあることを確認する。 ・文の構成について復習を行い，主語，述語，修飾語などの役割について確認する。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は，市の平均より低い。 ●漢字辞典の使い方の理解が不十分である。 ●文章から必要な事柄を抜き出しながら要約をしたり，情報と情報との関係を理解し，自分なりの表現で表したりすることに課題がある。	・漢字辞典の使い方を確認するとともに，日常的に漢字辞典を使う機会を設けていく。 ・文章の要約をする上で，必要な事柄を見付けられるよう，読み取りのポイントを押さえたり，読み取ったことを自分の言葉でまとめたりする学習を継続していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は，市の平均より低い。 ●ことわざの意味の理解が不十分である。	・普段からことわざや慣用句，四字熟語といった伝統的な言語文化に触れる学習を授業の中に取り入れる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は，市の平均と同じであった。 ○相手の伝えたいことの中心を捉えることができた。聞く姿勢や聞き方の指導を繰り返し行うことで，相手の意図を意識しながら話を聞くことができるようになってきたためと考える。 ●話し手の工夫を捉えることや聞いた話の内容をまとめる項目で課題が見られた。	・聞くことにおいて，相手の伝えたいことを理解しようとするとともに，相手の話し方を捉えたり，話全体の大まかな内容を掴んだりできるよう，指導していく。 ・相手を意識した話し方について，伝えたいことをはっきりさせたり，相手の表情や反応をうかがいながら話したりできるよう，指導していく。
書くこと	平均正答率は，市の平均よりやや高い。 ○いつ，どこで，だれが，何をしたという基本的な文の構成を意識しながら書くことができていた。様々な場面で文章を書くという活動を取り入れていくことで，基本的な書き方が身に付いてきている。 ●決められた文字数でまとめることや内容を読み取り，自分なりの考えを書くことにつまずく児童が多数見られた。	・日記や作文を書く際に，字数制限を取り入れたり，必ず自分の気持ちや考えを書くよう指導したりする。 ・個人差が大きく，苦手としている児童が多い領域のため，短文作りなどを日常的に取り入れ，文章を書くことへの抵抗感をなくすように努める。
読むこと	平均正答率は，市の平均より低い。 ●説明文，物語文ともに叙述を基に内容を捉えることに課題が見られる。 ●説明文では，段落相互の関係を捉えることに課題が見られる。	・物語文では，叙述を基に場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を正確に読み取ることができるように，情景に関する言葉に着目させ，その言葉のもつ意味や意図を確認しながら指導する。 ・説明文では，全体的な内容の把握だけでなく，文章が「始め･中･終わり」に分けられることや，文章の中から問いと答えを見付けることなどの文章構成が理解できるように指導する。

宇都宮市立上河内西小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.4	66.1	66.4
	図形	54.4	58.9	58.8
	変化と関係	68.6	66.6	67.0
	データの活用	48.8	54.4	54.2
観点	知識・技能	72.5	70.4	70.6
	思考・判断・表現	45.2	47.2	47.5
	主体的に学習に取組む態度	46.3	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

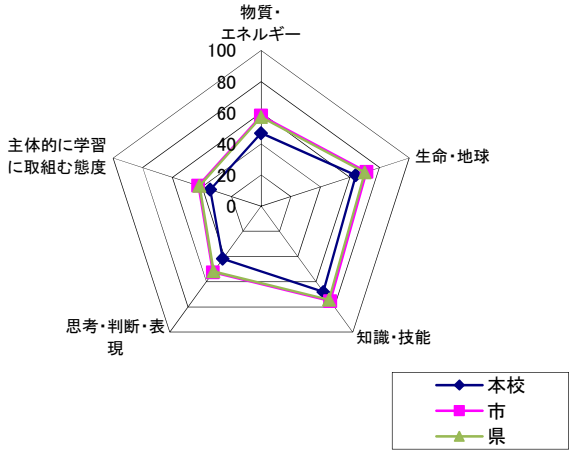
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は，市の平均より高い。 ○整数と小数の基本的な四則計算は身に付いている。数直線で表された概数の範囲を読み取ることもできている。学校全体で，基礎基本を学習する時間を設定している成果であると考えられる。 ●位取りの理解と，命数法で書かれた数を記数法で表すことが不十分である。基準量を求める除法の文章問題に合ったテープ図を読み取ることに課題が見られる。	・今後も計算の定着を図るとともに，児童のつまずきやすい分数の計算の処理を正確に行えるよう指導していく。 ・大きな数の位取りの概念と記数法での表し方について復習する。 ・文章問題において，立式するだけでなく，数量の関係が視覚的に理解できるよう，テープ図を使った読み取り方を指導していく。
図形	平均正答率は，市の平均より低い。 ○複合図形の面積において，長方形に分解して求める方法を理解している。コンパスを用いた平行四辺形の作図ができている。求積方法や作図の手順を丁寧に指導した成果と考えられる。 ●身近な面積に対する量感をイメージすることが難しい。また，面積の単位の関係の理解が不十分である。空間図形の面と辺の位置関係を捉えることに課題が見られる。	・平面図形の学習においては，量感を意識した単位の理解と単位の換算の仕方を復習する。 ・空間図形の学習においては，具体物を活用し，面や辺の位置関係を視覚的に捉えられるよう指導する。
変化と関係	平均正答率は，市の平均より高い。 ○2つの数量の関係を，もとの大きさの何倍になったかを比べる簡単な場合についての割合が理解できている。文章題において，もとにする大きさに印をつけるなど，文章を正しく読み取るための手立てを行ってきた成果と考えられる。 ●伴って変わる2つの数量について，表を見ながら関係式を導き出し，計算で求められることにつまずく児童が多く見られた。	・今後も図や表を用いながら，2つの数量の割合を比べる学習を行う。また，乗法と除法の意味を復習する。 ・伴って変わる2つの数量の変化や対応の特徴を，表を読み取りながら，式に表すことができるよう指導していく。
データの活用	平均正答率は，市の平均より低い。 ●折れ線グラフにおいて，グラフの傾きから変化の大きさを読み取ることの理解が不十分である。二次元表の意味を理解して，正確に読み取ることが難しい。	・折れ線グラフは，他教科でも資料として掲載されているため，その都度，グラフの傾きに着目しながら，読み取り方を復習する。 ・二次元表においては，表の各欄がもつ意味を捉えさせ，読み取り方の復習をする。

宇都宮市立上河内西小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質･エネルギー	46.9	58.1	57.2
	生命･地球	63.9	71.1	70.0
観点	知識･技能	68.1	75.5	74.4
	思考･判断･表現	41.8	52.7	51.9
	主体的に学習に取組む態度	34.4	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は，市の平均より低い。 ●「物の体積と力」では，閉じ込めた空気や水に力を加えたとき，空気だけが押し縮められることの理解が不十分である。 ●「物の体積と温度」では，温度によって空気や水，金属の体積が変化することの理解が身に付いていない。 ●「物のあたたまり方」では，あたためられた空気や水の動き方が理解できていなかった。	･金属や空気の温まり方に関する理解を深めるため，実験の結果から生活の中での事象に該当するものを思い起こさせるようにする。 ･主体的に学習に取り組む意欲が高まるよう，生活の中の疑問を導入で活用したり，意欲を高めるような工夫をしたりする。 ･実験の結果から導き出される考察を授業で学ぶ科学的な言葉とともに関連付けて考えさせる。 ･思考力･表現力の向上を図るため，授業において自分の考えを根拠を示しながら説明することや，順序立てて考えたりする活動を多く取り入れる。
生命・地球	平均正答率は，市の平均より低い。 ○「月と星」について，正しく理解できている。月や星の動きの観察の複数回行い，変化を確認したことで，理解が深まったと考えられる。 ●「１年間の動物のようす」では，季節によってツバメやカマキリの活動が変化していくことが理解できていなかった。 ●「雨水のゆくえと地面のようす」では，土の粒の大きさと水のしみこみやすさの関係の記述が書けない児童が多かった。 ●「自然の中の水」では，日なたの水の量は蒸発によって減っていくという理解が不十分である。 ●記述問題において，無回答の児童が多数見られる。	･実験によって導き出される結果から，どのようなことが言えるか考察を自分でしっかり考え，話し合うことで，見方や考え方を広められるようにする。 ･生活の中で学習の内容が，どのように関連付いてるか，生かされているかを折に触れ，考えさせる。 ･「１年間の動物のようす」では，動物の変化を温度の変化と関連付けて考えさせる。 ･理科の実験において，結果の考察を記述する習慣をつけていく。

宇都宮市立上河内西小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる」という設問の肯定的な回答は，100%であった。児童が一人一役の当番活動で自分の仕事を行ったり，委員会活動を活発に行ったりしていることが分かる。一方で，「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の設問では肯定回答が76.2%であり，自分の取り組みがクラスの中で役立っていると感じていない児童が28.3%いた。クラスの中で係活動の取組について振り返り，称賛する場を設けていきたい。
○「家で，学校の宿題をしている」という設問の肯定的な回答は，100%であった。「家で，学校の予習をしている」「家で，テストでまちがえた問題について勉強している」などの設問も市の平均を上回っており，家庭学習記録カードや自主学習メニューを設けたりしていることによって家庭学習の習慣化が図れ，決められた内容だけでなく，自主学習等で自分で考えて学習に取り組めていることが分かる。継続して続けられるよう，声掛けを行っていきたい。
○1か月の読書量11冊以上が47.6%と市の平均を大きく上回った。また，全員が3冊以上と回答をしており，下学年からの読書に対する積極的な取組によって継続的な読書の習慣化がされていることが分かる。
○「自分には，よいところがあると思う」という設問の肯定的な回答は90.5%であり，市の平均を上回っている。一人一人が活躍できる場や帰りの会で友達を称賛する場を設けている成果と言える。これからも教師から積極的に声を掛けたり，児童同士で褒め合える場を設定したりし，自己肯定感を高めていきたい。
●「だれに対しても，思いやりの心をもってせっしている」という設問の肯定的な回答は76.2%で，市の平均を下回っている。授業や日常的な場面を通して思いやりをもって生活していけるよう道徳の授業を充実させる。
●「授業の最後に，学習したことをふり返る活動をよく行っている」という設問の肯定的な回答は52.4%であった。授業の中で振り返りを書く時間を設けることを継続するとともに，それを互いに伝えたり，今日分かったことを発表させたりといった活動を行っていく。
●平日に一日あたり2時間以上テレビゲームをする児童が47.5%おり，その中でも4時間以上と回答した児童が19%であった。家庭と連携をし，家庭での時間の使い方について考えさせる機会を設ける。

宇都宮市立上河内西小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	今年度も，年度初めの懇談会で，家庭教育の重要性を学習指導主任より話し，家庭学習強化週間を年2回実施することの協力を依頼している。	家庭学習については，4年生で8割，5年生で6割の児童が学年でめやすとしている時間よりも長く実施している。5年生は高学年になり，めやすとする時間が長くなったため，割合は低いが，どちらの学年においても，市・県の平均よりも高い。「自分で計画を立てて取り組んでいるか」については，5年生で7割の児童が肯定的な回答をしているのに対して，4年生では5割弱であった。学校から出された宿題に取り組むだけでなく，自ら学習内容を決めるような主体的に学びに向かう学習習慣を身に付けさせたい。
毎時間，各授業での振り返りとテストの振り返りを実施	主体的に学習に取り組む態度を育てるために，授業のねらいに沿った振り返りの視点をもとに，振り返りを書く活動を積み重ねた。テストにおいても，分析をさせることで，次につなげられるようにしてきた。	主体的に学習に取り組む態度を養う一つの手立てとして，振り返りの活動を取り入れるように共通理解を図ってきたが，学年によって実施に差がある。学びを自分のものとし，次の学習や生活につなげるためにも振り返りの活動は大切であるため，学校全体で再度振り返りの意義を再確認し，実践していく。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
4・5年生の国語の「情報の扱い方に関する事項」や5年生の算数の「データの活用」の領域で市や県より低い。文章から集めた情報を分類・関係付けること，グラフや表から変化を読み取ることに課題が見られる。	児童が主体的に取り組めるように，表現する目的や意図を明確化する。	単元全体を通したカリキュラムマネジメントを行い，児童の興味関心をもてる情報を扱うことで，主体的に学習に取り組めるようにする。また，表現する目的や意図を児童が理解し，それに合わせて情報を正しく扱えるよう指導する。